

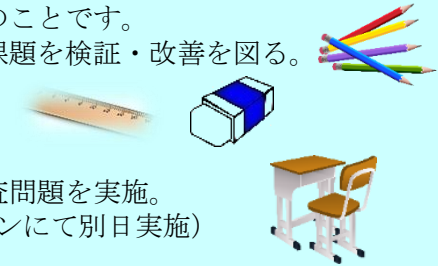
## 1. 全国学力・学習状況調査(全国学調)とは

次の3つのことを目的として、文部科学省が県や市町村の教育委員会等学校設置者の協力を得て、全国一斉に行う調査のことです。

- ①教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証・改善を図る。
- ②このような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

### <調査方法・内容>

- ・小学校6年生を対象に国語と算数、中学校3年生を対象に国語と数学と英語について、知識・活用を一体的に問う調査問題を実施。その他に質問紙調査を実施。(令和5年4月18日に実施) (中学校英語「話すこと」については、オンラインにて別日実施)
- ※質問紙調査とは、学習意欲や普段の暮らしぶり等に関する調査。



## 2. 村の小中学校の結果(概要)

- ◇小学校では、「国語」は、全国の平均正答率と比べるとやや上回っています。「算数」は、全国の平均正答率とほぼ同じです。
- ◇中学校では、「国語」と「数学」は、全国の平均正答率と比べるとやや上回っています。「英語」は、全国の平均正答率と比べるとやや下回っています。
- ◇質問紙調査では、「自分には、よいところがある」「学校に行くのは楽しい」の問いに対し、「当てはまる」という回答が、小中学校ともに全国を大きく上回っています。また、「今、住んでいる地域の行事に参加しているか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」の問いに対しても、岐阜県平均を大きく上回っています。

## 3. 結果に対する考察

- ◇小中学校共通して、国語の「書くこと」に関する問題について全国平均と比べ上回り、無回答率も低い。文で表現することへの抵抗感が低いと分析できます。
- ◇小学校においては、算数では、「図形」に関する問題でやや課題があると分析できます。
- ◇中学校においては、数学では、「数と式」「図形」に関する問題、英語では、「聞くこと」「書くこと」に関する問題で課題があると分析できます。また、英語の「話すこと」の調査は、全国の平均正答率とほぼ同じでしたが、全国的にも平均正答率が低く、英語を話すことに抵抗をもっている生徒が多いです。
- ◇小・中学校ともに、正答数のばらつきを表す数値(標準偏差)を全国と比べると、東白川村の方が小さく、それぞれの教科の正答数に、あまり個人差が見られませんでした。少人数のメリットを活かし、一人一人の学習状況の見届けが行われていることが理由として考えられます。
- ◇小中学校とも、「自分には、よいところがあると思う」「学校に行くのは楽しい」の問いに対し、「当てはまる」という回答が、全国平均、岐阜県平均よりも高い傾向が見られました。児童・生徒が自己肯定感をもちながら安心して学校生活を送っている傾向があることが分析できます。また、「今、住んでいる地域の行事に参加しているか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」との問いにも同様の傾向がみられ、東白川村を愛し、地域に貢献していきたいと願う児童生徒が、他の地域に比べ多い傾向にあることが分析できます。

## 4. 今後の取組

- 上記の結果や考察を踏まえ、東白川村として次のことを大切にしております。
- ◇一人一人の子どもに学習状況の実態と改善に向けての助言をフィードバックします。
  - ◇今後も、学校・家庭・地域との連携を大切に、子どもたちのよさを認め励まし、将来の夢や目標に向かってたくましく生きていく児童・生徒の育成に取り組めます。



※小中学校の児童生徒や保護者の皆様には学校ごとの分析や、今後の取組に関する文書が配布されます。